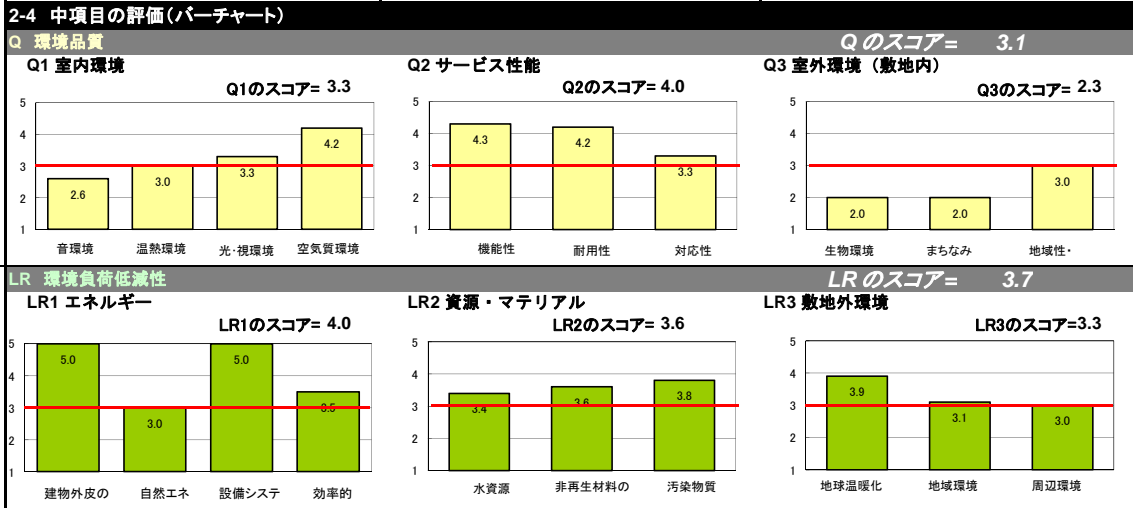
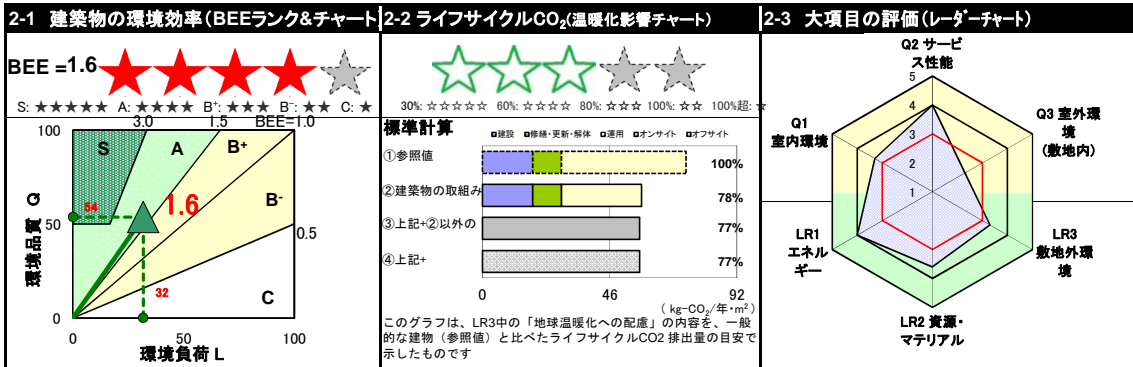


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ヤマト運輸(株)三河ゲートウェイ	階数	地上6F
建設地	豊田市生駒町切戸21番地 他	構造	S造
用途地域	用途地域:無指定、防火指定:無指定	平均居住人員	300人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年10月 予定	評価の実施日	2016年8月30日
敷地面積	36,996 m <sup>2</sup>	作成者	安藤寿洋
建築面積	15,620 m <sup>2</sup>	確認日	2016年8月30日
延床面積	64,881 m <sup>2</sup>	確認者	平野千春



3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>19.6 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	19.6 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	19.6 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">3.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">1.0</p> <p>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</p> <p>なし</p> <p>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3.1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2.2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性  
 LR-2.2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3.1 生物環境の保全と創出  
 ④地域材の活用  
 Q-3.2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音			2.6	0.15				2.6
1.2 遮音			3.0	0.40				3.3
1.2.1 開口部遮音性能			3.0	0.60	5.0			
1.2.2 界壁遮音性能			3.0	0.40	4.0			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-	4.0			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	4.0			
1.3 吸音			1.0	0.20	3.0			
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御			3.0	0.35				3.0
2.1.1 室温			3.0	0.50				
2.1.2 外皮性能			3.0	0.38	3.0			
2.1.3 ゾーン別制御性			3.0	0.25	3.0			
2.2 湿度制御			3.0	0.38				
2.3 空調方式			3.0	0.20	3.0			
2.3.1 空調方式			3.0	0.30	3.0			
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用			3.3	0.25				3.3
3.1.1 昼光率			3.6	0.30				
3.1.1.1 昼光率		事務所は、2面を連窓とし、積極的に採光を確保	4.0	0.60	5.0			
3.1.1.2 方位別開口			3.0	0.40	5.0			
3.1.1.3 昼光利用設備			3.0	0.40	5.0			
3.2 グレア対策			3.0	0.30				
3.2.1 昼光制御			3.0	1.00	4.0			
3.3 照度		事務所の照度750lx	4.0	0.15	4.0			
3.4 照明制御			3.0	0.25	3.0			
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策			4.2	0.25				4.2
4.1.1 化学汚染物質		内装材は、全般的にF☆☆☆☆を使用	5.0	0.50				
4.1.2 アスベスト対策			5.0	1.00	5.0			
4.2 換気			3.6	0.30				
4.2.1 換気量		建築基準法及び建築物衛生法を満たす換気量の1.2倍となつて	4.0	0.33	3.0			
4.2.2 自然換気性能			3.0	0.33	4.0			
4.2.3 取り入れ外気への配慮		給排気口離隔6m以上、給気口は汚染源のない方向に設置	4.0	0.33	3.0			
4.3 運用管理			3.0	0.20				
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視			3.0	0.50				
4.3.2 喫煙の制御			3.0	0.50				
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ			4.3	0.40				4.0
1.1.1 広さ・収納性			3.6	0.40				
1.1.1.1 広さ・収納性			3.0	0.33	5.0			
1.1.1.2 高度情報通信設備対応		OAフロアとなつており、コンセント容量が50VA/㎡以上となつて	5.0	0.33	4.0			
1.1.1.3 バリアフリー計画	独自		3.0	0.33				
1.2 心理性・快適性			5.0	0.30				
1.2.1 広さ感・景観		事務所天井高3m以上、事務室は窓に面して計画	5.0	0.33	4.0			
1.2.2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上の食堂(休憩室)、自販機を設置	5.0	0.33				
1.2.3 内装計画		パース等により、暖かみのある内装空間となることを確認	5.0	0.33				
1.3 維持管理			4.5	0.30				
1.3.1 維持管理に配慮した設計		出入口に風除室、外部鉄部に垂鉛メッキ などを使用	4.0	0.50				
1.3.2 維持管理用機能の確保		清掃員・清掃用具スペースを充分確保。フロアごとにSKを設置	5.0	0.50				
1.3.3 衛生管理業務								
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震			4.2	0.31				4.2
2.1.1 耐震性		損傷制御設計	5.0	0.48				
2.1.2 免震・制振性能		免震装置を導入	5.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数			3.3	0.33				
2.2.1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.23				
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		3.0	0.23				
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.09				
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出ダクトや厨房ダクトにはガルバニウムダクトを使用	5.0	0.08				
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管にライニング鋼管及びHVP管、排水に硬質塩化ビニル管	4.0	0.15				
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23				
2.4 信頼性			3.8	0.19				
2.4.1 空調・換気設備		発電機によるバックアップ及び空調の系統を区分している	4.0	0.20				
2.4.2 給排水・衛生設備		主な器具はグリーン購入法器具を採用。地下ピット内に汚水槽を設	4.0	0.20				
2.4.3 電気設備	②	発電機、UPSを設置。重要設備に二重化配線を行っている	5.0	0.20				
2.4.4 機械・配管支持方法			3.0	0.20				
2.4.5 通信・情報設備			3.0	0.20				
<b>3 対応性・更新性</b>								
3.1 空間のゆとり			3.3	0.29				3.3
3.1.1 階高のゆとり		階高3.9m以上	4.2	0.31				
3.1.1.1 階高のゆとり			5.0	0.60	4.0			
3.1.1.2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	3.0			
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31				
3.3 設備の更新性			3.0	0.38				
3.3.1 空調配管の更新性	②		3.0	0.17				
3.3.2 給排水管の更新性			3.0	0.17				
3.3.3 電気配線の更新性			3.0	0.11				
3.3.4 通信配線の更新性			3.0	0.11				
3.3.5 設備機器の更新性			3.0	0.22				
3.3.6 バックアップスペースの確保			3.0	0.22				

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>								
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			2.0	0.40	-	-	2.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.30	-	-	3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	3.0
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>								
<b>LR1 エネルギー</b>								
1 建物外皮の熱負荷抑制 BPI=0.503								
2 自然エネルギー利用								
3 設備システムの高効率化								
集合住宅以外の評価(3a,3b) BEI=0.68								
集合住宅の評価(3c)								
4 効率的運用								
集合住宅以外の評価								
4.1 モニタリング								
4.2 運用管理体制								
集合住宅の評価								
4.1 モニタリング								
4.2 運用管理体制								
<b>LR2 資源・マテリアル</b>								
1 水資源確保								
1.1 節水								
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								
1 雨水利用システム導入の有無								
2 雑排水等利用システム導入の有無								
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減								
2.2 既存建築躯体等の継続使用								
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用								
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用								
2.5 持続可能な森林から産出された木材								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み								
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用								
3.2 フロン・ハロンの回避								
1 消火剤								
2 発泡剤(断熱材等)								
3 冷媒								
<b>LR3 敷地外環境</b>								
1 地球温暖化への配慮								
2 地域環境への配慮								
2.1 大気汚染防止								
2.2 温熱環境悪化の改善								
2.3 地域インフラへの負荷抑制								
1 雨水排水負荷低減								
2 汚水処理負荷抑制								
3 交通負荷抑制								
4 廃棄物処理負荷抑制								
3 周辺環境への配慮								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								
1 騒音								
2 振動								
3 悪臭								
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								
1 風害の抑制								
2 砂塵の抑制								
3 日照障害の抑制								
3.3 光害の抑制								
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								

# 重点項目スコアシート

ヤマト運輸㈱三河ゲートウェイ

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.9</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.6</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	4.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.11	外構緑化:19.6%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

### ■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 災害に強く、フレキシビリティが高い建物とするため、免震構造、十分な階高、柱スパン、非常用発電機等を採用している。外壁は、断熱性の高い金属サドイッチパネルを採用し熱負荷の低減を図っている。建物南側には、太陽光パネルを設置しCO2の削減を図っている。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・内装材は、全面的にF☆☆☆☆を使用 ・基準法・建築物衛生法を満たす換気量の1.2倍 ・給排気口の離隔6m以上、給気口は汚染源の無い方向に設置 など
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・OAフロア採用。コンセント容量50VA/m <sup>3</sup> ・事務所天井高3m以上、事務室は窓に面して計画。 ・耐震性:損傷制御設計 ・免震装置を導入 など
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・空調換気設備:発電機によるバックアップ。空調の系統を区分け。 ・電気設備:発電機・UPSを設置。重要設備に2重化配線。 ・階高3.9m以上 など
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・BPI=0.503 ・太陽光パネルを設置 ・BEMSを導入 など
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・節水型便器を採用。 ・躯体を仕上げと分離。内装材と設備が錯綜しない など
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・適切な自転車置場、駐車場、荷捌き駐車場、W12m出入口を県道側に設置
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。